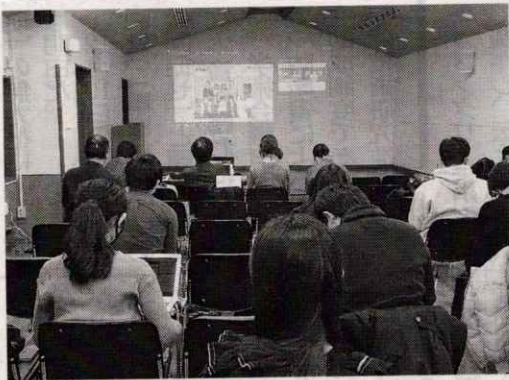


2020年12月25日 『ジャーナリスト』



韓国ニユース打破のチェ・スンホさん講演

もっと骨身削らねば

日韓学生フォーラム

ソウルと東京結ぶ

「ジャーナリストを指す日韓学生フォーラム」の6回目が、ソウルと東京・早稲田の会場をオンラインで結んで11月末に開かれた。コロナ禍のもとでの新たな試みには、両国から30人の学生が参加した。韓国の独立系ネットメディア・ニユース打破のディレクター、チェ・スンホさんをソウル会場に招き、講演と議論を通して両国のメディア事情を考えようというシンポジウムだ。

チェさんは、李明博政権時代の政府のメディア介入でMBCテレビを解雇され、ニユース打破に移り、日本でも公開された映画「告白」共犯

者たちの監督を務めた。MBCに社長として返り咲いた後、再びニユース打破に戻りディレクターとして今も現場でニユースを追い続ける根っからのジャーナリストだ。

チェさんの講演は、プロンプターの画面を通じて同時通訳で1時間半に及んだ。写真。チェさんは、テレビ局時代にドキュメンタリー番組の制作に長年携わった際に、最も大切にしたこととして①真実を追い求めること、その際、取材者は自分の方向性によって、ファクトを取捨選択し歪曲することを最も警戒しなければならぬ②批判の対象となる人々の意見や立場を把握し、それを番組に反映すること、の2点を挙げた。

ニユースしか見ないようになれば社会は分断される。こうした中で、人々に判断の材料を示して、包容するジャーナリズムを目指すことが必要だ」と訴え、「ジャーナリストが骨身を削らなければ市民の信頼に応えられない」という厳しい現実がある」と学生たちに語りかけた。

シンポジウムでは、日韓の学生が発表を行った。新聞やテレビに代わってネットから情報を得る人が増えているのは共通した認識だ。日本の学生は、ネットメディアの新しい動きなどを映像レポートで伝えた。レポート作りを通して学生たちは、メディアの違いが問題なのではなく、ジャーナリストが、きちんと事実を伝えることが必要なことに気づく。その気づきを刻み、来春、学生たちは記者への一歩を踏み出す。

古川英一